

平成23年

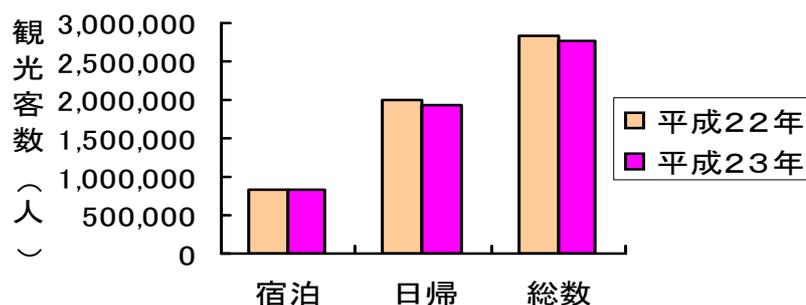
主要観光地における夏季(7/1～8/31)の観光客入込状況について

県内の主要観光地（5カ所）における夏季観光客入込客数は、宿泊客830,800人（対前年比98.5%）、日帰客が1,936,800人（対前年比94.1%）で、観光客総数は2,767,600人（対前年比95.4%）の入込数となった。

（単位：人）

	平成22年	平成23年	増減	対前年比
宿泊客	843,300	830,800	▲ 12,500	98.5%
日帰客	2,057,400	1,936,800	▲ 120,600	94.1%
総数	2,900,700	2,767,600	▲ 113,100	95.4%

主要観光地における夏季観光客入込状況



主要観光地の特徴

高野町・那智勝浦町で増加。その他は減少

今年は、東日本大震災での津波被害の影響により、海を敬遠する傾向が見られ、ほとんどの海水浴場で海水浴客が減少した。

和歌山市は、もっとも入込客数の多い和歌山マリーナシティの観光客が、7月後半・8月前半の猛暑の影響で減少したことにより、日帰客が昨年を割り込む結果となった。

高野町は、霊宝館にて7月16日からの夏季特別展「女性と高野山」が開催され、女性客を中心に宿泊・日帰とも増加した。

白浜町の2大花火大会は、数日前から天候もよかったため、昨年と比べ増加したが、7月の連休には台風6号の接近による、町内の海水浴場の、遊泳禁止や、また台風の被害による一部遊泳禁止もあり海水浴客は減少した。

那智勝浦町は、海水浴客は減少したが、熊野古道ブームが影響していると思われ、宿泊客が好調で、昨年並みの入込であった。

串本町は、東日本大震災の影響により、大口団体客等のキャンセルがあったため減少した。